

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」第3回検討会

令和元年5月14日に常呂町多目的研修センターにおいて、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会 第3回検討会」を開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。第3回検討会では、第2回検討会の結果を踏まえて作成した「常呂川下流地区（常呂自治区）水害タイムライン試行版（素案）」詳細表に基づき、これまでグループごとに検討してきた防災行動の内容を参加全機関で認識共有するために協議を行いました。

開催日時 令和元年5月14日（火）9：00～17：00

実施場所 北見市常呂町多目的研修センター 1階大ホール（北見市常呂町土佐2番地1）

参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方气象台、陸上自衛隊、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、北見市教育委員会、北見市商工会、北海道電力株式会社、東日本電信電話株式会社、常呂町建設業協会、常呂自治区内9町内会 計65名

1. 開会

開会にあたり、アドバイザーである日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センターの根本昌宏センター長より「第3回目にあたり、このタイムライン表を見て素晴らしいものができつつあると感じている。今まで様々な災害から学ぶことも多いが、とくに好事例からいかに次の災害対策につなげて行くか、学びながら常呂川流域に限らず、オホーツク全体、北海道全体の安全につながるような取り組みがこのタイムラインの中から発信して行ければと思っている。今日は長時間になるが、地域の安全に特化したタイムラインの完成を目指しご尽力いただきたい。」との挨拶をいただき、関係機関65名が参加し、第3回検討会が行われました。



根本昌宏アドバイザー

2. 読み合わせ

はじめに事務局より設置目的、これまでの取り組み状況の振り返りと今後のスケジュール、タイムラインについての説明があり、タイムラインステージの切り替え条件の修正点、避難勧告の発令目安の説明の後、読み合わせを行いました。



<読み合わせの具体内容>

読み合わせでは第2回検討会（平成31年2月22日開催）と、第2回自治体WG、道道7号WGの議論結果・意見照会をとりまとめた『常呂川下流地区（常呂自治区）水害タイムライン（素案）』の詳細表を題材とし、行動項目ごとに読上げ、参加全機関で連携事項・連携方法の確認・調整を行いました。読み合わせでは関係機関から様々な意見が出され、活発な議論を経てタイムラインの修正方針について合意がなされました。

3. 全体講評

タイムライン詳細表の全項目の読み合わせ後、松尾一郎座長（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター客員教授）から「他の地域に比べても今までで一番多いと思われる項目数を真剣に検討して頂いたことに敬意を表するとともに、今日の結果が反映されたタイムライン試行版で一度演習をして本番に備えてほしい。今月は記録の短時間大雨情報が8回もあった。今までにないことで、全国的にも災害リスクが高まっている。皆さんの努力で、この試行版を使えるしくみを作って行って欲しい。」との講評を頂きました。



松尾一郎座長

4. 閉会

司会から今回の結果を整理したものを各機関へ意見照会したのち、7月には試行版完成式・協定式とフォーラムの開催、第4回検討会として図上訓練を予定していることが伝えられ、第3回検討会は閉会となりました。